

フィリピン, マヨン火山における GPS 観測について

The GPS observation around Mayon volcano. Philippines

藤原 健治 [1]; Corpuz Ernesto G.[2]; 福田 信夫 [3]; 白坂 光行 [4]

Kenji Fujiwara[1]; Ernesto G. Corpuz[2]; Nobuo Fukuda[3]; Mitsuyuki Shirasaka[4]

[1] 気象庁; [2] フィリピン火山地震研究所; [3] 気象庁・地震火山・精密地震観測室; [4] 気象庁・地震火山

[1] JMA; [2] PHIVOLCS-DOST; [3] Matsushiro Seismological Obs., Seismological and Volcanological Dept., JMA; [4] Seismology and Volcanology, JMA

マヨン火山はフィリピン・ルソン島東端に位置するフィリピンで最も活発な火山である。1616年以降、48回の激しい噴火を繰り返している。多くは玄武岩質-安山岩質の火砕流、溶岩流、降下火砕物を伴う。1812年の噴火の際に発生した火砕サージは南方山麓をなぎ払い、約1200人の犠牲者を出した。近年マヨン火山周辺で増加している農業従事者、商業従事者、観光関係者等に火山監視に基づく十分な情報提供を行うことは非常に重要である。

マヨン火山では2000年、2002年の噴火後、やや静穏な状態が続いていたが、昨年(2006)噴火が発生した。気象庁とPHIVOLCSでは2003年以降マヨン火山周辺においてGPS観測を続けている。本講演では、2006年の噴火前後の期間を含むGPS観測結果について報告する。